

時代の要請から数度にわたる改築で姿を変えてきた

# さばやまずいどう 佐波山隧道



周防・長門の国境を越えた萩往還は、一の坂を下ってしばらくいくと、長い上り坂となり、鯖山峠に着きます。この峠には「従是南佐波郡 従是北吉敷郡」と刻まれた郡境碑とともに、明治天皇が諸国行幸の際に休憩した地として「明治天皇鯖山峠御小休所址」の石碑が建立されています。現在は佐波山峠と表しますが、当時は鯖山が一般的だったようです。ちなみに佐波川を鯖川とも表すのは、かつて東大寺再建用材を奈良へ運ぶ指揮にあたった俊乗房重源上人が、職人や人夫のために木片に「鯖」という字を書き込み、加持祈祷した木片を川に投げ込むとたちまち鯖になったことからという伝説があります。

現在、この佐波山峠の下を2本のトンネルが通っています。現在は下りのトンネルに姿を変えた「佐波山洞道」は明治20年（1887）完成で、延長515.8mは当時国内で3番目の長さでした。施工は、鹿背隧道の開削で得た経験を生かして、福田亀吉が請け負いました。頭領の亀吉は久賀（現・山口県大島郡周防大島町）出身の石工たちを中心に組織を作って隧道工事を進めました。洞道が完成すると琵琶湖疏水の工事にも関わっています。佐波山洞道の開通によって交通の便がよくなると、山口と防府を結ぶ乗合自動車も営業を始めました。

その後佐波山洞道は大正10年（1921）、昭和15年（1940）と改築され、第18回山口国体に備えて三度目の改築「佐波山隧道」工事が昭和38年（1963）に行われています。

しかし、急激な交通量の増加と老朽化に伴い、昭和46年（1971）上りに佐波山トンネルが新しく造られました。続いて旧トンネルも昭和48年に改築され、現在の上下線を分離した4車線の道路ができあがりました。かつてトンネル上部に掲げられていた「佐波山洞道」のプレートは防府側出口付近に遺されています。

## ■位置図



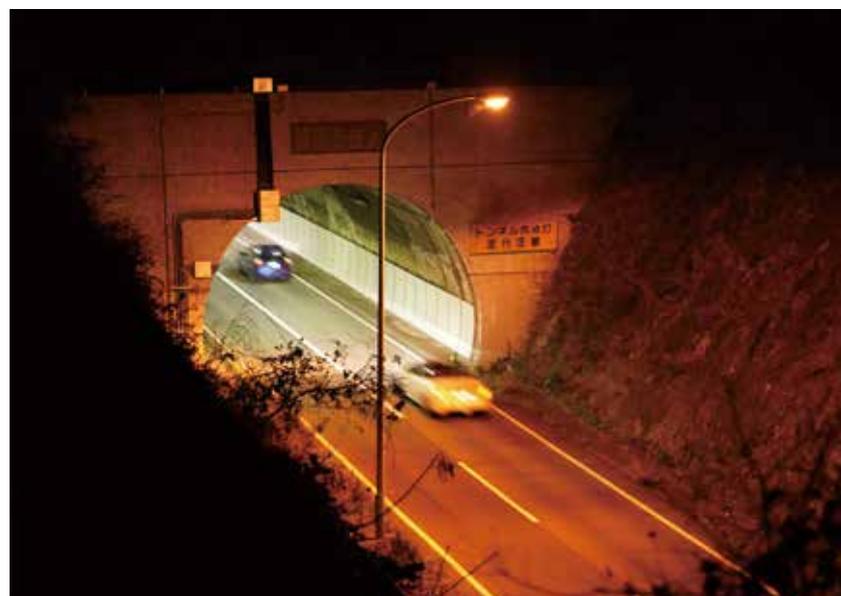
「佐波山洞道」のプレート



佐波山峠にのこる郡境碑



佐波山隧道（防府側）



佐波山隧道下り線（防府側）